

### 1) 現在の仕事の内容

現在は、東京農工大学グローバルイノベーション研究院（GIR）で特任助教として働いています。本研究院は国際的な先端研究を推進する機関であり、現職は研究活動に重点をおいた役職となっています。自らの研究課題を設定し、国際的な共同研究者らとプロジェクトを進め、世界的に影響のある学会や学術雑誌で成果報告することを目指しています。現在行っている研究テーマは、「1. バチルス属芽胞による植物生長促進機構の解明」と「2. 芽胞利用型バイオ肥料の種子コーティング技術の開発」です。基礎研究と応用研究の両方で、国際的に注目度の高い研究成果を生み出していきたいです。

### 2) 博士号を取得した研究内容

博士論文のタイトルは、「Application of Biofertilizer Containing Spores of *Bacillus pumilus* TUAT1 to Agricultural Rice Cultivation and Exploration for Substances Inducing Plant Growth Promoting Effect」です。こちらの内容は、現在の研究テーマの前身です。イネ科のモデル植物を使用し、増収効果を示すバイオ肥料の作用機構の解明や、農業生産の場での適した施用方法などの研究を行ってまいりました。

### 3) 博士号がどのように活用できているか

自分の好きな研究テーマを遂行するためには、博士号の取得は必須事項です。故に、研究を続けられていること自体、博士号を取得したおかげだと実感しています。研究者としての第一歩目が、博士号の取得だと考えています。

### 4) 卓越で学んだことがどのように活用できているか

「卓越大学院で学んだことを活用している」というよりも、これまでの活動を振り返った時に、現在の柔軟な思考や俯瞰的な捉え方、前例のない取り組みに対する前向きな姿勢や実行力が、卓越大学院を通してより強化されたと感じられています。さらに、研究プロジェクトの推進力や国際共同研究力、研究成果の社会実装など、研究活動に関連する幅広い能力も身に付きました。これらは、現職において、国際共同研究を推進していく上で一つも欠かせない能力だと感じています。

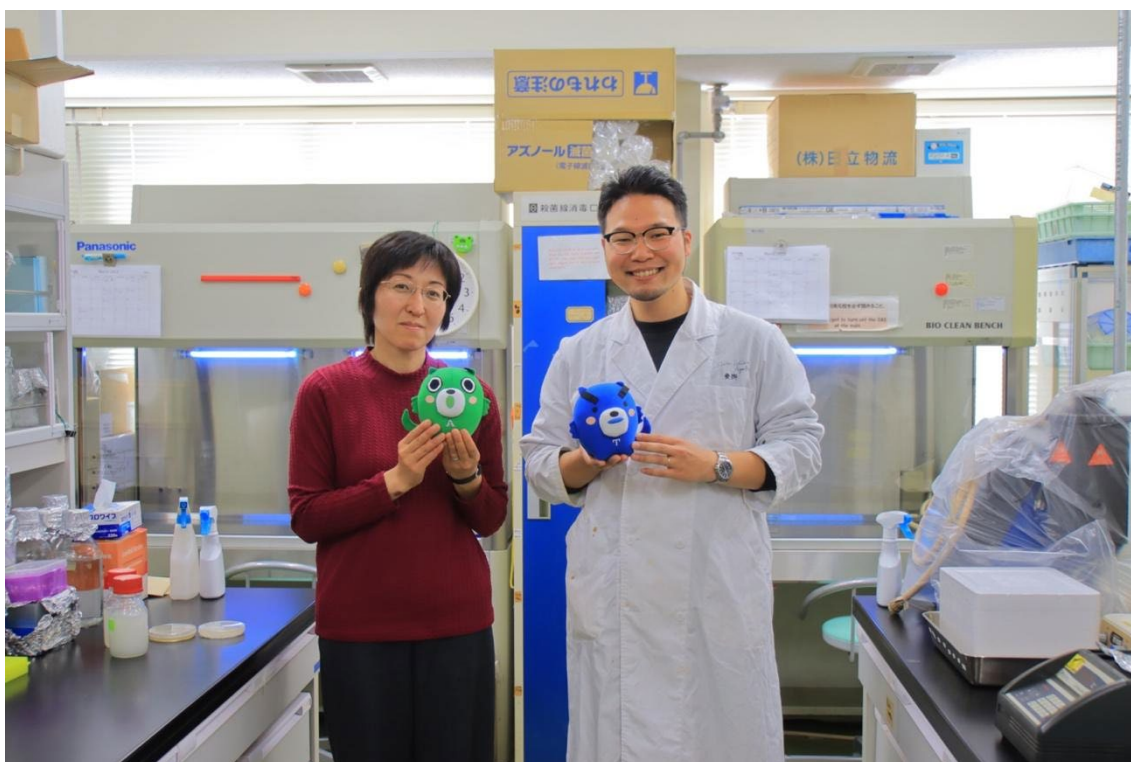
### 5) 今後の展望

2022年の12月より、アメリカ合衆国ミズーリ州に位置するミズーリ大学コロンビア校の Gary Stacey 研究室に1年間派遣される予定です。こちらの研究室は以前、卓越大学院の渡航支援により留学した場所です。当時は新型コロナウイルスの影響によ

って留学が一時中断され4ヶ月で帰国してしまいましたが、今回の派遣研究は卓越大学院を修了し博士号を取得した状態で臨めます。今回の派遣期間中、前回よりも成果を出して帰国したいです。

#### 6) 博士号取得を目指す卓越大学院の後輩たちへのメッセージ

卓越大学院を通して得られた知見や強化された能力は、どの科目に起因されるのかわかる化することは難しいです。しかし、博士課程を修了してみれば、卓越大学院での授業だけでなく、そこで得られた繋がりや些細な気づきが今の自分の一部を形作っていると実感することがあります。日々の成長を実感することは難しいですが、未来の自分の為に、今の自分を信じて（楽しみながら）突き進んで下さい。



写真：GIR ユニット長、大津直子教授との一枚（撮影：東京農工大学 竹原有津奈様）